



未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”

板橋区

面積	32.22km ²
世帯数	316,200世帯
人口	572,490人 (うち外国人)28,437人
予算	2,219億円
職員数	3,642人

歴史・見所・名所

「板橋」という地名が史料に登場するのは古く、『延慶本平家物語』によると、治承4(1180)年に挙兵した源頼朝が「武蔵国豊島ノ上滝野川ノ板橋」に布陣したという記録が確認できます。「板橋」の地名は、明治22(1889)年の町村制実施によって町名として採用され、昭和7(1932)年に東京市板橋区が誕生しました。昭和22(1947)年に特別区となり、同年8月に練馬区を分離して現在の板橋区になっています。

8月の「いたばし花火大会」は、都内最大の尺玉五寸や関東最長級700mの大ナイアガラの滝などで多くの人々を魅了しています。また、荒川河川敷内にコースを設定した「板橋Cityマラソン」は、走りやすく、制限時間が7時間と長いことから、毎年全国から多くの市民ランナーが集まる人気の大会となっています。文化面においても、企画展において高い評価を得てきた23区で初めての区立美術館が令和元(2019)年にリニューアルされ、伝統と刷新が融合する美術館として親しまれています。さらに、新たな中央図書館を平和公園内に整備しており、海外の絵本を手にとって見られる全国でも例のない「いたばしポーロニャ絵本館」を併設し、「絵本のまち板橋」を象徴する魅力あるエリアとするとともに、友好交流都市であるイタリアのポーロニャ市との関係を深めています。



産業と生活が融合するまち
区全域に印刷業や光学機器等をはじめとする都市型ものづくり産業の事業所が立地しています。



いたばし花火大会
荒川の夏の風物詩。対岸の戸田市とあわせて1万発を超える花火が夏の夜空を彩ります。



板橋Cityマラソン
フルマラソンに加え、小・中学生や車椅子の方対象のコースも設定。春本番の荒川の自然を満喫できます。令和2年度はオンライン開催となりました。

概要

区は23区の北西部に位置し、武蔵野の面影を残す赤塚の森や、広大な河川敷を有する荒川、美しい桜並木に彩られる石神井川など、豊かな自然に恵まれています。区内には東武東上線・都営三田線・JR埼京線など5本の鉄道路線が走り、主要幹線道路として中山道・川越街道・環状七号線・環状八号線・首都高速5号線などが通っています。

昭和7(1932)年当時の人口は約12万人でしたが、戦後の復興と高度成長期を経て、高島平団地の開発やマンション建設等により人口は増加し、現在では57万人(外国人を含む)を超えており、住宅都市・生活都市としての顔を持っています。

一方、商店街を中心とする商業、埼玉県境に近い赤塚地域における都市農業、荒川沿岸部等の工業が併存しており、都内有数の産業都市としての顔も持っています。都市型産業に求められる高付加価値化の実現に向け、「板五米店」をはじめとする商店街の空き店舗の活用や、先端技術や研究開発型企業の誘致による既存産業との連携を通じ、地域経済の活性化を進めています。また、新たなビジネスチャンスを創出し持続可能性を追求するツールとなるSDGsの普及・啓発を

図っています。

その他にも、区内小学校で始めた「緑のカーテン」や、乳幼児を抱える保護者が気軽に立ち寄れる区発祥の「赤ちゃんの駅」は、民間施設を含め全国へと広がりを見せています。また、児童の放課後対策事業として区立全小学校に居場所を確保している「あいキッズ」は、学童クラブの待機児童を解消する効果もあり、全国自治体のモデルにもなっています。

主要課題

区の人口は、令和元(2019)年に57万人に達しました。人口推計では今後もしばらくは増加傾向が続くものの、令和12(2030)年にピークを迎えて減少に転じると見込んでおり、遠からず到来する人口減少社会への備えが必要となっています。高齢化率は加速度的に上昇し、令和27(2045)年には29.1%になると推計され、社会保障費のさらなる増加が想定されています。また、老朽化した公共施設の更新時期が一斉に到来することから、計画的な施設維持・更新を行うための取組が急務となっています。さらに、近い将来起こる確率が高まっている“大規模地震”や近年の“気候危機”と言われる自然災害の脅威に備えた、災害に強いまちづくりを推進していく必要があります。加えて、コロナ禍の影響等で厳しさを増した区民の生活や区内経済に、新たな日常を見据えて適時適切に対応していくことも求められています。

将来展望

区は「板橋区基本構想」で掲げる将来像「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」の実現に向け、平成28年度からの10か年を計画期間とする「板橋区基本計画2025」を策定し、区政を総合的・計画的に推進していく方向性と目標を示し、中長期的な施策体系を明らかにしました。さらに、政策分野別の施策に横串を通してパッケージとして組み合わせた「未来創造戦略」を定め、「若い世代の定住化」「健康長寿のまちづくり」「未来へつなぐまちづくり」の三つを柱とし、限られた資源を集中的に投入することで、「東京で一番住みたくなるまち」として評価されるまちを目指しています。

コロナ禍等による厳しい財政運営が暫く続くと思われませんが、現状を変革するため、SDGsを活用して大学や企業等と積極的に連携し、新たな価値を創造しながら区政の持続的発展に取り組んでいきます。また、特別区全国連携プロジェクトをはじめ、各種協定を締結している自治体のほか、様々な自治体との連携・協力を一層進めていきます。特に、友好交流都市である石川県金沢市、岩手県大船渡市、栃木県日光市とは、行政間のみならず幅広い世代にわたる住民レベルでの連携・協力を深めており、観光、産業をはじめ、文化、教育、スポーツなど多様な分野で、相互の交流・発展とともに、交流人口の増加を目指しています。



区立美術館

収蔵作品は江戸狩野派をはじめとする近世絵画、大正から昭和初期の前衛美術、板橋区ゆかりの作家の作品が中心となっています。江戸文化や池袋モンパルナスを広く紹介する展覧会や、イタリア・ボローニャ国際絵本原画展をはじめとしたイラスト・デザインに関する展覧会も開催するほか、これらに連携した講演会、ワークショップ等の活動も行っています。



板五米店

大正3(1914)年に建てられた江戸四宿のひとつ、板橋宿の面影を色濃く残す商家を、おむすびカフェとしてリニューアルオープンしました。そのほか店内には、板橋宿のまち歩きをサポートする「イタゴツーリズム案内所」、板橋宿や史跡公園ゆかりの品を展示する「マチノギャラリー」等が置かれています。



赤ちゃんの駅

民間施設を含む184か所の施設を「赤ちゃんの駅」として指定(令和2(2020)年11月1日現在)。授乳やオムツ替えなどに利用でき、「赤ちゃんと一緒にでも安心して外出できる」と好評を得ています。